# バンクーバー交流の旅

## 2007年度　姉妹都市体験学習事業

2007年4月26日（木）～5月3日（木）　バンクーバー市

The 11th Annual International Discovery Walk Festival
Vancouver, Washington USA

VANCOUVER, USA
DISCOVERY WALKS

JIEA
城陽市国際交流協会

目　　次


行程表・目次 ..... 1
山岡　誠　（団長） ..... 2
飯降　悦正 ..... 4
〃 ..... 5
河野　容子 ..... 6
菊本　順子 ..... 7
〃 ..... 8
田中　芳子 ..... 9
〃 ..... 10
出島　永 ..... 11
中村　文宣 ..... 12
〃 ..... 13
〃 ..... 14
〃 ..... 15
〃 ..... 16
〃 ..... 17
派遣団名簿、あとがき ..... 18

ポラード市長と城陽市民訪問団

## ＜ バンクーバー交流の旅行程 ＞

2007年4月26日～5月3日　6泊8日間

4月26日（木）結団式
　　城陽市役所発
　　伊丹空港
　　羽田空港
　　シアトル空港
　　ポートランド空港
　　宿舎
　　市役所表敬訪問

27日（金）DWF・子供文化パレード
　　バンクーバー砦、音吉達の碑など見学
　　DWF メイヤーズ・ランチ
　　クラーク・カレッジにてキャンパス見学と生涯学習プログラム参加
　　DWF開会式、メイヤーズ・ウォーク

28日（土）50+トリップに参加
　　オレゴン州太平洋岸クラッツォップ郡博覧会（ウォレン・クラブ・フェスティバル）参加、アストリアへドライブ

29日（日）DWF閉会式
　　シャロン＆マサル・フジオカさん宅訪問

30日（月）ファーステンバーグ・コミュニティーセンター見学
　　ポートランド観光

5月1日（火）アーバリッジ退職者施設訪問
　　ベッドフォード退職者施設訪問
　　クラーク郡歴史博物館見学

2日（水）　ポートランド空港
　　サンフランシスコ空港

3日（木）　関西空港着
　　城陽市役所着

＊DWF：ディスカバリー・ウォーク・フェスティバル(Discovery Walk Festival)の略

宿泊先：Hilton Hotel Vancouver Washington
301 West 6th Street,
Vancouver, WA 98660 U.S.A.
Tel:1-360-993-4500

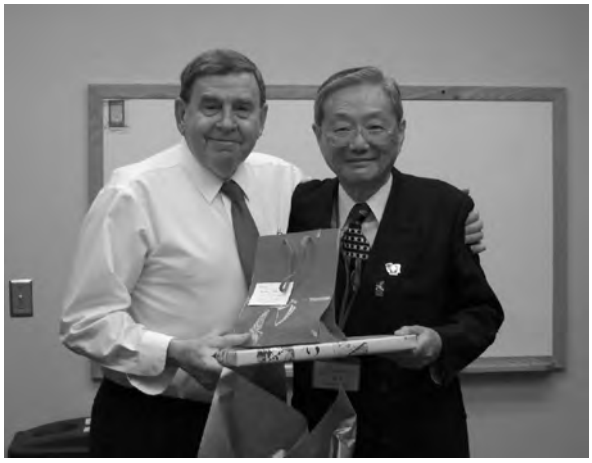
## バンクーバー市訪問の旅を回想して

### 団長 山岡 誠

城陽市国際交流協会の2007年度事業計画で今年度は姉妹都市のアメリカ、ワシントン州のバンクーバー市に協会員による市民訪問団を派遣することとしていた。最低5名以上の応募者があることを条件にしていたが、6名の応募者があったので実行することになった。工藤会長からの要講により、私が団長を引き受け事務局の1名と合わせて総勢8名の訪問団を結成した。訪問の目的は、バンクーバー市で実施される世界ウォーキング協会公認の「ディスカバリーウォーク大会」に参加することと市内の老人施設などを見学することであった。

本年4月26日朝市役所で出発式を行い橋本市長を始め関係者からの激励を受け勇躍出発した。シアトルを経由し、同じ26日の昼過ぎバンクーバー市に隣接するポートランド空港に着いた。出口で「ディスカバリーウォークに参加の皆さん歓迎します」と書かれた大きな画用紙を掲げてロータリー・クラブの人たちが出迎えてくださった。いろいろな人たちが大会運営に参加されていることがわかった。

宿についてすぐ市役所に旧知のポラード市長を訪ねた。市長は、暖かく我々を歓迎してくださり、しばしの歓談の後、市役所玄関近くにある市議会場を見学して市役所を後にし滞米第一日が始まった。以下印象的出来事を記したい。



**ポラード市長と山岡団長**

**クラーク・カレッジ日本語コースの生徒と**

大会は、小学生のウォーキングから始まった。広い史跡公園の草原の中の約2ｋｍの路を小学生、若い空軍の兵士や教師たちの元気なチームが30ぐらい連なって歩く、元気な集団を見守る親達や年寄り達、緑の草原に並ぶあの黄色いボンネットのスクールバスの列が絵のような良きアメリカを展開してくれた。

老人会のバス旅行に参加した。市の公用バスを何台かクラブが借受け認可された年配のボランティアが自分達で運転して旅行するのである。その1台に乗せてもらった。100キロ以上を太平洋岸まで走り蟹を食べ音楽や買い物を楽しむ催しである。老人達の自主的な旅行で市役所の車は貸すが市の職員はいなかったようである。楽しい旅だった。

有料老人ホームと低所得者用の老人ホームを見学したが、施設は、ものすごく立派であるが、低所得者用ホームは6年待ちとのことである。

往復の旅行中のことであるが往路シアトル空港で待合時間中ジュースを買ったとき店員から「カムサハムニダ」と言われた。復路サンフランシスコへの機中で隣席のフィリピン女性が「あなたはマルコス大統領に似ている」と言った。日本人はアジア人だと改めて思った。いろいろな想い出を心に刻み新しいことを学び、良き人たちとの出会いのあった8日間の旅は終わった。我々を歓迎してくださったポラード市長をはじめお世話になったシティマネージャ補佐のペギーさんや多くの関係者に心からお礼申し上げると共にいい旅作りに協力してくださった団員に心から感謝する次第である。

## ファーステンバーグ・コミュニティー・センター

2006年にオープンしたバンクーバー市の新しい施設で、体育館、ジム、プールなどの運動施設と託児所、若者や高齢者が集うコミュニティー施設からなる複合施設です。木材・竹の利用、水資源再利用、窓のデザインや開閉による採光、換気などに様々な工夫を採用して環境への配慮がなされた建物です。主な木材は施設が建設されたその土地に生えていた木を利用し、リサイクルした草、ゴムなどの材料も多く使用されています。

プールは滑り台、水中遊び場、川から構成されていて、緩やかな水が流れています。これはより楽しいプールであるとともに高齢者等の運動に配慮しているためです。

屋外にはサマー・スプレイ・グランドという遊戯場があり、水の大砲、滝、虹を作る霧などが適切に処理され循環する水を噴射します。

サドリズ･サミットと名付けられた岩登りは165,000ドル（約1,930万円）を寄付したAsghar Sadri氏とその家族にちなんでいます。

ジムにある運動器具もNautilusという地元企業からの25,000ドル（約2,925万円）相当の寄付です。

体育館の2階部分には空間の有効利用のためトラックが作られています。

**城陽の子供達の絵画**

コミュニティー・スペースとしては高齢者用の部屋（Trapadero IIという名称）、若者用の部屋（Teen Zone）、ゲーム室、会議室、調理室などがあります。また180人収容の小ホールもあり訪問団はここで高齢者への配食サービスに参加しました。このホールは稼動式の仕切りにより3つの部屋に分割できます。

入り口近くには退職シニア・ボランティア・プログラムにより営業している喫茶コーナーもあります。

館内のあちらこちらにアート展示スペースがあり、絶えず新しいものが展示されているそうです。訪問した日には城陽から送付した児童絵画が展示されていました。

案内にあたって館長のビッキーさん（Vicki A. Vanneman）は施設の運営について「センターの主なプログラムはRetired Senior Volunteer Program(RSVP)、Southwest Washington Medical Center (SWMC)、Robes and Fishes という3つの協力団体とともに運営されている。それらも含め約200のNPOと1,000人のボランティアが登録、活動している。」「現時点でセンター運営経費の80%をセンター事業収入でまかなっており、3年以内には100%を目指している。」「利用券は若者（4～18歳）、大人、大人カップル、シニア（60歳以上）、シニアカップル、家族別となっているが、特別クラスは別料金である。」と話してくれました。

下記のバンクーバー市のウェブサイトから施設の最新情報が見られます。

http://www.cityofvancouver.us/parks-recreation/facilities_locations/FCC.htm

## 「バンクーバー交流の旅に参加して」

## 飯降　悦正

### ボランティアの力

私たちの乗った飛行機は隣の州のオレゴン州ポートランド空港に到着。ロビーに出ると「ディスカバリーウォークにようこそ」と手書きのプラカードをもった人たちに迎えられた。聞けばボランティアの人たちで、バンクーバー市まで送ってもらえることになった。

彼らの自家用車３台に分乗することになり、私は大きなピックアップ型トラックに乗せてもらう。

到着からボランティアのお世話になるが、その後も、アメリカのボランティアの力にはお世話になるばかりであった。

東部コミュニティセンターにも訪問したが、そこの運営はボランティアでしており、現時点では市からの補助金があるが数年のうちに独立採算でやっていけるようになるという。

５０＋（オーバーフィフティーズ）という５０歳以上を対象とした生涯学習プログラムの社会見学に便乗してオレゴン州アストリアで開かれているウォレン・クラブ・フェスティバルというカニ祭りを見学に行った際も案内する人も運転手もすべてボランティア。市は公用車を提供するだけである。日本では車の保険のことも

高齢者プログラムである50+Tripでボランティアでドライバーをされているダリルさん

クラーク・カレッジ日本語コースの生徒と

あり実現は難しいのかもしれないが、こういう方式もあってもよいのかもしれない。

ただし、ボランティアが盛んということは行政への市民の目も厳しくなり、行政がしなければならないのは何かということがつねに突きつけられているのではないだろうか。

なぜ、ボランティアに参加しているのか。参加して得るものはあったかということを聞きたかったが、私のとぼしい語学力では聞けなかった。しかし、ボランティアたちの明るい笑顔と言葉の通じない私たちにもにこやかに話しかけてくるあたたかなこころづかいから、きっと金銭的なものでないものを求めてそして社会参加そのものを楽しんでいるのだろうと思った。

### 国土の広さに圧倒

バンクーバー市を一言で説明したら・・・。「奈良公園の中に家が建っているみたい」と答えた人がいるそうだが、本当にうまい表現だと思う。ディスカバリーウォークで市内を歩いて巡ったが、豊かな緑に包まれた街だ。

コロンビア川の川岸は遊歩道になっており、朝早くから夜遅くまでジョギングを楽しむ人が絶えない。道行く人からはあいさつの声がかかる。アメリカの治安の悪さを心配していたが、まったく無用だった。

### 気さくな人々

交流の旅で出会った人たちは皆気軽に話しかけてくれた。スーパーで買い物をしていた時に私たちが日本人だとわかると近寄ってきて学生の頃に岐阜に行っていたとか、高齢者施設では軍隊で佐世保へ行っていたとか・・。

子ども文化パレードに参加

やはり、西海岸のこの地方は日本との交流があるのか、多くの人が日本とのつながりを持っていることが分かったが、ほとんど、話している内容がわからず、もどかしい思いであった。

**関係者に感謝**

交流の機会を与えてくれた市や交流協会の皆さん、暖かく迎えてくれたバンクーバー市の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

また、行く機会があれば、語学も勉強してさらに交流を深めたいと思っています。

クラークカレッジの桜並木

## 子ども文化パレード

**地域や自分の文化を楽しもう！**

**例年ディスカバリー・ウォーク・フェスティバルの開会式に先立ち行われるイベントです。**

**市内の小学生1000人以上が参加し、生徒一人一人が自分の家族や興味のある国についての国旗やプラカードを持って、国立歴史保護地区の公園をバンクーバー一砦に向かって行進します。**

**行進に先立って黄色いスクールバスでやってきた生徒はクラスごとに整列します。担任の先生とは別に軍服を着た若者達のボランティアも参加し、隣の組に負けないよう大きな気勢を上げて準備します。**

**パレードはバンクーバー市長を先頭にピアソン飛行場前を出発して、沿道には保護者や地域の人が見守る中、大きな木々がいっぱいの公園を進みます。**

**さすがに移民の国アメリカと納得させられるほどヨーロッパ、アジア、太平洋諸島、ラテン・アメリカ、アフリカなど世界各国の国旗がたなびき、民族衣装が彩りを添えます。日の丸もいくつか見られ、生徒に尋ねてみると「おばあさんが日本人」「小さいときに日本に住んだことがある」などの答えが返ってきました。**

**パレードは約1時間ほどでバンクーバー一砦に入場した生徒たちは市長や教育関係者からの話を聞きます。こうしたスピーチではイベントの達成感、街やコミュニティーの誇りについての内容が多く、自分達の住んでいる地域についての自信と誇りを共感する場となっているようです。**

## 「Discovery Walkに参加し、アメリカの生涯学習を学ぼう! バンクーバー交流の旅」

### 河野 容子

市役所での結団式から旅が始まりました。ワクワクドキドキしながら Let's go !! いろいろな乗り物に乗る度、まわりの景色に「すごい所を通っているんだ」「きれいだなあ」と感心しどうしでした。飛行機、リムジンバス、シアトルの電車、ポートランドのバスetc. いろいろな乗り物を体験しました。現地バンクーバーでは、すばらしい人達の出会いが待っていました。バンクーバー市長のポラード氏、AETのスージー先生のご家族、クラーク大学の先生、また、そこで日本語を学んでいる学生、それから、Discovery Walkで出会った人々、子供文化パレードで出会った人達、どの人達もとても気さくで一生忘れる事のないすばらしい出会いでした。又、ボランティアの人達、アーバリッジ老人自立支援施設、ベッドフォード老人施設で明るく楽しく生活している人達etc. 本当にいい思い出になりました。感動の連続の旅でした。これを機にもっと自分の知識を広め語学を勉強し、何かの形で恩返しをしたい気持で一杯です。この旅を企画してくださった人達、旅を供にした仲間達、お世話になり、感謝の気持で一杯です。ありがとうございました。
Thank you for your kindness !!

クラークカレッジの生涯学習プログラム
「インターネット」

## クラーク・カレッジ
**地域大学**

**クラーク・カレッジは1933年に開校したコミュニティー・カレッジまたは地域大学と呼ばれる教育機関で大学卒業に向けて単位として認定される2年間のコースをはじめ、技術、語学、生涯学習としての短期コース、トラベル学習など様々な学習機会を提供する教育機関で12,000人以上が在籍しています。**

**国土の広いアメリカにはこうした形態の学校が数多くワシントン州にも35校あります。**

**今回の訪問では高齢者対象のパソコン教室と一般対象の日本語のクラスで体験授業を受けました。ワシントン州のあるアメリカ北西部は現地で「北西太平洋地域（North West Pacific）」と呼ばれ立地条件からも日本や他のアジア地域との関係が深い地域です。日系企業も多数進出しており、日本や日本語に対する興味や需用は高い地区です。また、若者達はマンガ、アニメなどに親しんでいて、日本語クラスの生徒の中にも日本のサブカルチャーに興味のある方が多いようでした。**

**バンクーバー市中心部から1～2キロほど離れたキャンパスは広い芝生が広がり、樹木の緑がいっぱいです。これまでの訪問団が植樹した木、散りはじめでしたが日本人から送られた見事な桜並木は素晴らしい眺めです。**

**カレッジのトラベル学習では姉妹都市城陽を訪問し、日本文化を学び京都・奈良といった古都を訪ねる計画もあるそうです。**

## 「バンクーバー交流の旅」

**菊本　順子**

出発前の天気予報では、曇か雨、寒暖の差が激しく（朝4℃、昼16℃）10℃以上もあり、最悪の天候を胸にたたみながら少し暗く、重い心で未知の土地への不安感をいだきつつ成田空港を出発した。だが、それらの不安をアメリカ（Vancouver市）は見事に裏切ってくれた。私達に「これからの滞在を楽しんで」（give a Welcome）と言ってくれているかのように滞在中は雨とは無縁であった。住んでいる人の人柄の良さ、高く澄んだ空と空気、緑豊かな木々、色とりどりに咲き乱れる花々、静寂な街の佇まいは、初めての土地なのに何故か懐かしい昔から訪れている様な心情を思いおこさせてくれた。6日間という短い期間で毎日行事があり少し疲れもあったが、日程を消化してゆく中で人々の交流もあり、施設等の見学、パレード等々。充実した日々を送りながら、日本とアメリカとの文化の違い（例えば、アメリカの合理性、民主性、ボランティア＜Volunteer＞が地域社会の中に確立されている精神性の豊かさ）等強く感じられた。

### 50+trip
50才以上が参加できる旅行

バンクーバー市が実施している高齢者対象の事業に参加しました。50+、60+というのは何歳以上という参加資格を表しています。

オレゴン沿岸クラッツォップ博覧会

コロンビア川を渡るフェリーの上で

地域のイベント、日常に便利な買い物ツアー、昼食会などもあります。バンクーバー市の公用車を登録ボランティアが運転して出かけます。職員はプログラムを管理している1名のみだそうです。

今回参加したプログラムはコロンビア川を250キロほど下った太平洋岸の街で開かれたクラッツォップ郡博覧会へのツアーでした。5台ほどの車に分乗して約2時間のドライブ。Ever Green State（常緑の州）というニックネームを持つワシントン州だけあり森林が多く、川沿いに木材、パルプなどの工場もたくさんあります。

大賑わいの会場では地域の特産品やアイデア商品の店が出店していて、ランチには大味な蟹を堪能。

ドライバーのダリルさんの配慮で帰路には川を渡るフェリーにも乗せてもらい春の郊外を楽しみました。

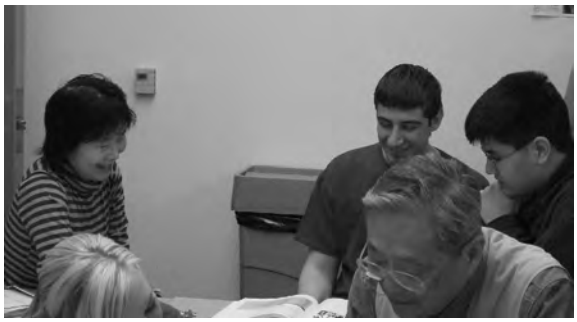
**フジオカさんの家でホームパティ**

また、肥満（元相撲のkonishikiみたいな）の男女が目立った。健康≒ダイエット（diet）に力を入れている国で「なるほど」と頷ける。国の広さにしても知識の中では理解していたものの実際にその土地を踏んでみて、改めて、とてつもなくアメリカはBigであることを実感した。「百聞は一見に如かず」とは正にこのことだと思った。ニューヨーク等の大都市の治安の悪い恐ろしいイメージもあり、治安の良いVancouver市等も存在する。初めてのアメリカの第一印象は私にとってはWonderfulであった。

城陽市がVancouver市と姉妹都市を調印したのは1995年10月30日約12年前、その間Vancouver市のことを知らずにいたことを後悔しつつ、今、私の心の中でVancouver市への国際交流がスタート（have Started）した。

**ディスカバリーウォークで**

そして、今回心に深く印象に残っている出来事がある。一つは、ベッドフォード老人施設を訪問した昼食会でテーブルを同じくした二人のa ladyとa gentleman、私の未熟な英語では会話が続かず筆記でCommunicationをして下さった心やさしいイギリス人の an old Woman そんな様子（私は、冷汗をかきながら必死で何かをしていた）を見て Sweet と言って下さったドイツ人の an old Man おまけに笑顔も素敵とも。



**クラークカレッジ日本語コースの生徒と**

私は、激励に訪れたのに、反対に激励された感じがして、痛切に言葉の壁を感じつつ長い間生きてこられたこれまでの人生の豊かさと、包容力に触れた貴重な体験であった。

二つ目は、クラークカレッジで日本語を学ぶ学生の教室に参加したり、Windows パソコンの講義に参加したり、アメリカの生活に溶け込む形で学習させていただいた。又、シニアの留学制度もあるそうで、「言葉は世界をつなぐ」という。私もこの土地（Vancouver市）なら……留学してみたい！　そんな心境になった。

最後にJIEA姉妹都市体験学習（2007）に参加し、多くのことを短期間ながら学ぶことができ、この熱き心を「継続は戦力なり」をモットーに持ち続けることが大切なのだと思いつつ、私のこれからの課題となりそうである。そして、官公庁・民間人・交流協会・双方が一体となり国際交流がより深まり発展してゆくことを願い、参加させていただいたことを心から感謝したいと思います。

本当にDiscovery Walk でした。

# 「バンクーバー市誕生150周年記念 バンクーバー交流の旅 に参加して」

**田中　芳子**

バンクーバー市滞在中は、連日、好いお天気に恵まれました。

大西部に位置するワシントン州バンクーバー市は、大自然のなかの美しい街、樹木も空も高く空気までもおいしく感じました。人々は陽気で、フレンドリーで、よくよくふとった人が多いのは気がかりでしたが、全体的に土地も人もでっかいと思いました。

雄大なコロンビア川沿いから歩き始める10キロコースのディスカバリー・ウォークでは、街の風景や家々の美しい庭に目をやりながらゆっくりと歩み、途中の教会で、しばし歌を聞きながら休憩を取りました。また、ウォークに参加している人たちと話す機会があれば姉妹都市城陽市からの参加をアピールしました。

生涯学習体験に訪れたクラークカレッジでは、日本語授業の教室で男性の学生と、互いに英語と日本語で趣味などの会話で交流し、次に、インターネットを学ぶ高齢者の教室では、バンクーバー市のホームページを見る操作手順を学びましたが、講師の英語による説明にとまどっていると、隣の席のローズさんが気さくに教えてくれました。高齢者の方々がいきいきと陽気に学ばれているのが印象的でした。案内役のケリーさんが発音しにくい「いらっしゃいませ」を団員一人一人に一生懸命あいさつされ、歓迎の気持ちが伝わってきました。

**エスターショートパークで記念撮影**

**コロンビア川を眺めるイルチー像の前で**

カレッジキャンパスでは八重桜が満開で、城陽市とバンクーバー市の絆を感じました。

コミュニティセンターの施設見学では、全市民を対象に多様なニーズに対応できる文化施設、体育施設、老人施設、子供施設などの複合施設の管理運営システムを学びました。運営の特徴は、利用料が必要なこと、リタイヤシニアボランティアを多く活用していることです。シニアが社会にスキルを提供できるようディレクターが配置されていました。2年後は、新たな図書館が建設されるとのことでした。

訪問した2箇所の老人自立支援施設は、ともに自立して生活する人の施設で所得により入所対象が分かれていました。団員の出島さんが日本の茶道文化を紹介、一部の方にはお手前のほろ苦い抹茶を味わってもらいました。昼食をご一緒したベッドフォード老人施設の女性の方は、大戦後軍人の夫とともに3年間神奈川で暮らしたことがあると話されていました。

また、市民レベルでの国際交流を図る機会がありました。アストリアのウォレン・クラブ・フェスティバルに参加した時にお会いした75歳の女性のディビスさんと翌日偶然再会し、菊本さんと自宅へ招待され午後の紅茶をごちそうになりました。ディビスさんとは、たどたどしい英会話で日本の暮らしなどを紹介し交流をもちました。これまでの広い住居での写真を見せていただき高齢になると自分にあった生活スタイルを持つアメリカ人の合理性を感じました。また、城陽市にＡＥＴで来られているスージーさんの

実家のホームパーティにも全員招待され、大歓迎を受けました。広くて豪華な調度のある部屋の数々にびっくり、お手製のおいしい食事とおしゃべりで楽しい交流のひと時をもちました。

この旅の最初には、バンクーバー市のポラード市長にお会いしました。表敬訪問で市役所にお伺いした時、歓迎のごあいさつのあとコーヒーをサービスしていただきました。次は子供文化パレードの時、サイクリング車でさっそうと現れ市民と交流をされていました。ポラード市長はとてもフランクな感じの方で、バンクーバー市誕生150周年をとても誇りに、自慢に話されていました。今回の交流の旅で中心的にお世話をしていただいたバンクーバー市職員のペギーさんはとても美しく聡明な方で、おもてなしのすばらしさに感激しました。

今回の旅は、バンクーバー市の生き生きとした高齢者の生涯学習やボランティア参加などを学び、充実した交流と大感動の連続でした。

今後、この体験が国際交流に役立つことがあればと思っています。

## ポートランド

**バンクーバー市からコロンビア川を南へ渡ると人口170万人のオレゴン州ポートランドです。バンクーバーへ飛行機で行く際もポートランド空港を利用します。バンクーバーへは車で20～30分ほどの距離です。**

**今回はバンクーバー市からTRI METと呼ばれる公共のバスやMAXと呼ばれる市電などを利用しました。バス停には見かけが様々な人がいて少しおっかなびっくり。勿論学生も通学に利用しています。**

**バスには車椅子の乗客がスムーズに乗降できるようにな配慮がされていて関心しました。（P16に写真）**

ポートランドのライトレール
“MAX”

ディスカバリー・ウォークで

## アーバリッジ退職者施設

**国や州の補助を受けて運営されている施設で日常の生活（家事）などができる人から、介護が必要な人まで幅広い範囲の高齢者に対応するためで105の部屋があります。入居者の多くは女性だそうです。使用料は入居者の収入の30％ほどになっている福祉型の施設です。**

**それぞれの部屋は1Bed Roomのアパートメントです。施設内には食堂、美容院、会議室、談話室、また家族の訪問を迎えられる大きめのリビング＆キッチンなどがあります。**

**アメリカでは子供は子供、親は親として生活することが当たり前で、高齢になると自分の財産などを処分して、収入などに応じたこうした退職者施設に入居することが一般的だそうです。**

**訪問時には団員の出島さんがお茶を披露してくれました。入居者も施設のスタッフも本格的なお抹茶は初めてで大騒ぎでした。（P11に写真）**

## バンクーバー交流の旅　　回想

### 出島　永

城陽市国際交流協会主催のバンクーバー交流の旅に一市民として参加させて頂き有難うございました。お陰様でいろいろな事を体験することが出来ました。

2007年4月26日　晴　起床。6：30　いつも通りの朝食。荷物をトランクに詰みこみ家を8時50分に車で主人に送ってもらい市役所に行く。9時30分市役所4階の部屋にて結団式。工藤会長を始め、市長、ロータリークラブ会長等より挨拶を受ける。こんな体験は初めてなので面映い感じで落ちつかない。

市役所を10時に出発。伊丹空港、羽田空港を経て、成田空港より出発。約8時間の空の旅。シアトル空港着。あまり疲れもなかったがシアトル空港の大きかったこと。3回も地下鉄を乗りついでやっと出口に来た。ポートランド行きの飛行機は小型のプロペラ機で20人乗り位だが、満身創痍のように見受け、大丈夫かなと少し不安になった。
座席が一番前で二人掛けだったので、乗務員の仕事がよく解って面白かった。機中で女性が編物をしており毛糸玉が転がらない様な容器に入れてあったので感心した。

ポートランド空港ではボランティアの方が迎えて下さり、手作りのボードに日本字で「ディスカバリー・ウォークにようこそ」と書いてありました。未知の国が概知の国のように思えて心安らぐ。こういう事が交流都市・姉妹都市と云うことなのでしょう。車でホテルまで送ってもらって有難かった。

私達の部屋は公園を正面に見るとても見晴らしの良い広い部屋で、5日間を過ごせるなんて、ビックリ!!

市役所訪問

想像していたよりもこじんまりとした市役所の建物だった。ポラード市長は気さくな人柄で親しみやすく、市長自らコーヒーを配ってくださりビックリ。執務所に案内される。入り口のドアの廻りに小学生の絵が沢山貼ってあり、市長さん自ら説明して下さった。おみやげにTシャツ、雨傘、布袋、ポストカード等をいただき、Tシャツは早速翌日のウォークに着て行った。

アメリカの人達は背も高く大きい人達だが、相当に太った人が沢山いるのには驚いた（男女とも）。アメリカが肥満について問題だとしているのは当然だと思う。食生活にもっと注意を払うべきだとつくづく思った。ハムならハムだけ、ステーキならステーキだけで野菜は別に注文しないとないらしい。日本ならレタスとかキャベツとかトマトとか副え物がついていると思う不可解だ。飲み物もコーヒーが主だが、ミルクなり砂糖等を入れるとカロリーが上がる。お茶ならノンカロリーなのに。
京都の御室の桜もいいけれど、クラークカレッジの桜の並木は立派だった。桜吹雪の中、花の絨毯の道を歩く。とても気持がよかった。
28日のクラブフェスティバルの帰路、コロンビア川北岸の通りから望んだコロンビア川の風景のすばらしさ、又、フェリーボートで川を渡った事の体験はとても楽しい想い出です。

老人施設の見学等は、私自身もっと城陽市の施設等を見学して今後に備えなければとおそまきながら考えました。
とにかく、皆様のお陰で楽しい旅が出来たことを感謝いたします。

団長様を初め皆様方のご親切ありがとうございました。

**アーバリッジ退職者施設でお茶のお手前**

# アメリカ合州国・ワシントン州・バンクーバー市「バンクーバー交流の旅」ディスカバリーウォーク 参加・体験記

中村 文宣

アメリカ合州国・ワシントン州・バンクーバー市への想い

城陽市とバンクーバー市が姉妹都市を結んでから、「バンクーバー」ってどんな所なのか興味を持ちはじめ、特に鴻ノ巣運動公園「バンクーバー砦」に行くたびに本物を見たい気持ちが強くなりました。また、以前バンクーバーにホームステイしたことのある知人から、バンクーバーは緑が多く公園の中に住宅があるような、それは、それはきれいな街で、治安も良く、ゴミ一つ落ちてなく、コロンビア川沿いのウオーターフロントは散策するのに絶好の場所で、また市民が皆、親切で友好的と聞き、それ以来、機会があればぜひ行ってみたいと思っていました。バンクーバーの事が知りたくて図書館にも行きましたが、壁に資料は貼ってあるものの、現地で発行された書籍があるだけで日本語の資料は見当たりませんでした。姉妹都市を結んでいるので、関心のある市民が多いのにバンクーバーの事が、日本語では何も分からない。この際、自分自身の眼で確かめ「バンクーバー砦」や色々な資料と役に立つ情報をビデオ・写真にまとめてみたいと思い、今回の「バンクーバー交流の旅」に参加しました。カナダ・バンクーバーは観光案内の本がたくさん出ているのに、アメリカ・ワシントン州・バンクーバー市を紹介した本やツアーは全く見当たりません。インターネットで調べましたが、満足出来るものはありませんでした。

ディスカバリー・ウォーク・フェスティバルについて

私達は、初日は５キロコース、２９日は１０キロコースに参加しました。何キロを選ぶか、何時に出発するかも全くの自由で、登録し、ゼッケンを受け取り、カードにコースを申請するだけで良く、また時間制限もなく、参加者は自由に自分のペースでウォーキングを楽しむ事が出来ました。また、途中にチェックポイントがあり水やくだもの、お菓子が色々用意されていました。赤ちゃんをベビーカーに乗せ、家族で楽しく歩いていました。赤ちゃんに手を振ると家族全員が笑顔で手を振って応えてくれました。これもアメリカらしい光景でした。

バンクーバー砦

２７日（金）　５キロコースはヒルトンホテルをスタートし、右には川幅１kmもある雄大なコロンビア川を眺め、左にはベランダ付きの高級住宅街を見ながら進みます。途中、チェックポイントで水を補給し、木陰のある遊歩道をゴールに向かって歩きました。ちょうど八重桜やアメリカンハナミズキが満開でした。右側の小高くなった丘の上を貨物列車がゆっくりと通り過ぎて往きました。どの位連結しているのだろうか。２００輌まで数えましたが、まだまだ続き、途中で数えるのをやめてしまいました。天気は快晴。気温は６８Ｆ＝２０℃位でしょうか。

２９日（日）朝８時半出発、１０キロコースに７名で参加。（山岡団長は２０キロに挑戦）途中まで５キロコースと同じ道を進む。フリーウエイ沿いを１キロ程進む。日曜日のためかフリーウエイはガラガラで、左手にはピアソン航空基地があり、セスナ機が大きな音をたてて飛んでいました。基地の中を抜け、学校の構内を通り、住宅街へと進む。所々にコースの順路標識があり、きれいな花が咲いた庭をながめながら進むと「売り家」の看板を発見。５６万９千ドル（約７千万円？）View of Portland Lights!とあり眼下にポートランドの街が一望出来ました。どの家にも塀がなく庭が広く、色々な花が咲き乱れ、ボタンや大きなチューリップも咲いていました。やがて昨日訪問したクラーク・カレッジ構内に出ました。

一角に「城陽市・バンクーバー市姉妹都市結成１０周年記念植樹」の桜と梅の木を発見。両方とも立派に大きく成長し全員感慨にふけりました。記念写真もたくさん撮りました。

また、１９９０年にアメリカ・コトブキの蔭山様から贈られたクラーク・カレッジの満開の桜の木も見事に咲き誇っていました。１７年でこんなにも立派に大きく育ち、毎年、学生の目を楽しませています。今ではクラーク・カレッジの名物になっているようです。クラーク・カレッジを抜けると図書館がありましたが、１２時開館となっていました。（１１時２０分通過）まもなくOfficers Rowに出ました。ここは広い公園の中に歴史的建造物が立ち並んでいて、ある建物はレストランして営業したり、内部を公開しているものもあり、どれも手入れがいき届いていました。ちょうど神戸・北野の異人館のような建物でした。日本と違うのはボランティアで運営され、入場料は無く、気持ちだけ箱に入れるシステムでした。

この公園の一角に「ビジターセンター」がありバンクーバーの歴史を知る事が出来ます。毛皮を求めてイギリスからこの地へやって来た事。ビーバーの皮の展示もありました。丸々太ったビーバーは想像以上に大きくて認識を新たにしました。当時その毛皮の売買の中心が「バンクーバー砦」だった事も分かりました。やがてお昼の時間も過ぎゴールに向かっていると、途中で、はぐれた２人と会う事も出来ました。２人は昨日、アストリアでご一緒した女性の家に招待され、お茶をご馳走になったり市内を案内していただいたそうでご機嫌でした。

ホテルに戻り、手続きをして、記念のメダルもいただきました。午後２時近かったのですが、２０キロコースに挑戦した山岡団長はすでに戻っておられました。私達が遅かったのか、山岡団長が早かったのか？１０キロコースの万歩計はちょうど1万7千歩でした。途中「Officers Row」や「ビジターセンター」に行ったりして寄り道をしたので１２キロ近く歩いたようです。その後８名でベトナム料理を食べに行く。日本の料理の味に近く、どこか懐かしい感じでした。

午後４時からディスカバリーウォーク・フェスティバルの閉会式がヒルトンホテルであり、私達「城陽」はわざわざ日本から来たという事で「スペシャルゲスト」として表彰され記念品までいただきました。楽しい閉会式でした。

クラークカレッジの満開の桜

Clark Collegeの日本語専攻コース

Clark Collegeの日本語専攻コースの教師と生徒さんは私達を構内で出迎え、教室まで案内してくださった。日本人教師は全員若い女性で、赤い服を着たアメリカ教師も挨拶する前にお辞儀をしてから話を始めました。私達日本人には握手よりお辞儀の方が良いと思ったのかも知れません。教室では黒木先生と言う、やはり若い女性の日本人教師で、授業の最中でした。日本語は縦書きの上に、ひらがなやカタカナ、漢字まで混じっているので、難しいとの事。それにしても構内で出迎えの際、日本語で書いた手紙は上手に書けていたが、相当練習したらしい。授業で気になったのは、日本ではあまり使わない単語（病名など）を勉強していた事。もっと普通の会話に出てくる言葉を習って欲しい。私が受け持った生徒（１８歳のかわいい女の子）は日本へ行って「ろぼと」を作りたいと言われ理解出来なかったが、黒木先生はすかさず「ロボット」と手助けしてくれました。日本のロボット技術はアメリカの若い女性にも人気があるらしい。でも、最近バンクーバーから日本の会社が次々に撤退し、今や日本企業はゼロ。人気もかげり気味らしく、イタリア語やフランス語などヨーロッパに人気があるらしい。日本は今「アニメ」と「漫画」で何とか生徒の心をひきつけているらしいが、ヨーロッパに負けないように、もっと頑張って欲しいものです。

シニア向けのＩＴ授業も受けました。広い教室にはパソコン（デル製）がずらりと並び、生徒は50歳以上の人ばかりの市民対象の授業で、内容はグーグルの開き方、使い方で、まだ第１回目の基礎の授業でした。授業開始前に教室に着いたが、すでに入口には先生と生徒が前の授業を終わるのを待っていて、生徒は先生に色々質問をしていました。日本の大学では、先生（教授）は遅れてくるのが当たり前で、休校かなと思った頃でないと授業が始まらないので、何故か新鮮に感じました。

コミュニティーセンター、アーバリッジ高齢者自立支援施設

コミュニティーセンター、アーバリッジ高齢者自立支援施設は公立の施設であったが、こんなのが日本にあればと思うほど素晴らしい建物と設備で、コミュニティーセンターにはプールやトレーニングマシーン、室内競技場、専属のコーチ、幼児保育所、図書館やゲームコーナー、レストランなどありとあらゆるものが揃っていて、州の援助もあるが、自主経営を目指し入場料のほかに、売店やグッズ販売にも力を入れている。アメリカの凄い所は「ボランティア制度」が確立され、ここでも上手く回っている。小泉前首相は「民で出来ることは民で」と言っていたが、民では限界がある。日本ではこのような総合的に利用できる所が少ない。プールはどこへ、トレーニングはどこへという具合に別々の施設へ行かなければならないし、費用もすごく高い。総合的なものは公立で作り、運営は今、城陽でやっている保育園経営のように民間委託をするのが、最適と思われる。

ベッドフォード老人施設

ここの施設も立派で、中庭には花が咲き、食事をしている利用者の方も全員穏やかで幸せそうだったのが、印象的でした。中でも「日本のお茶」の実演を見つめる目は真剣で、動作一つ見過ごさない態度には感服し、これ程、真剣に見てもらえるのなら全員にお茶を振舞いたかった。でも自分から「飲んでみよう、やってみよう」と手を挙げる人が少なく、残念でもありました。各テーブルに分かれて座りコミュニケーションを図りましたが、英語があまり通じず、うまくいきませんでしたが、折り紙は、相当、興味を持ってくれました。

子どもパレード

市内の子ども達が自分自身で描いた世界の国々の特色のものを持ち行進します。若い軍服の青年がリーダーになり、歌を歌いながら元気に行進していました。私達も一緒に行進しました。各国に混じって日本も紹介されていましたが、１人は韓国風の洋服で、もう１人はチャイナドレスでした。アメリカから見れば日本も韓国も中国も同じように捉えられていたのが残念で、まだまだ日本のＰＲの必要性を強く感じました。

バンクーバー市議会

会議場は市役所の中にあり、議員は８名のみ。議場は市民に開放され、１００席もの傍聴席が確保されており、議会が開かれる時は、オンブズマンが常に見守り、市民の関心はとても高く、勝手に「お手盛り」など出来ません。市長の支出も厳しくチェックされているようです。

アメリカンドリーム?

閉会式のあと、１７時から城陽市内の中学校や国際交流協会で英会話教師をしているスージー・ＦＵＪＩＯＫＡのご両親宅を訪問しました。ホテルからフリーウエイを通った郊外の新興住宅街の一角に７年前に建てたという邸宅でした。２世で歯科医のご主人（藤岡　勝氏）とアメリカ人の奥様には４人の娘さんがいて長女は歯科医に、次女はエイズの研究のためアフリカへ。三女は日本へ、４女は？？（忘れた）子ども達は皆独立して頑張っているとの事。驚いたのは家の中。広い台所と広い居間。ゆったりしたテーブルと椅子が無造作に部屋ごとに置いてあり、食堂だけでもご夫婦と私達８名が座ってもまだ余裕あり。２階には広々としたベッドルームと隣室には、夫婦専用のバス・トイレがあり。母屋の続きに大きな車３台は入るガレージとその前にも同じ駐車スペースがあり、ウッドデッキも広々。ご主人の両親は広島出身で、戦後すぐハワイへ渡ったあと生まれたのでご主人は日本語が全く通じない。アメリカ人の奥様は娘さんと何度も日本に来ているので、「駄じゃれ」が飛び出す程上手くしゃべるので感心しました。でも、歯科医師一筋でこれほどの家を手に入れるとはやはり「アメリカン・ドリーム」かな。１０キロコースを歩いた時に見た売り家が５６万９千ドルだったので、ここだったらそれ以上はするのだろうか？

でも、気になった事がある。それは「トイレ」ヒルトンホテルもそうだったが、アメリカで「ウォシュレット」にお目にかかった事がない。日本では今や当たり前に使っているのに、何故普及しないのだろうか？狩猟民族には必要がないのだろうか。「ウォシュレット」と「湯船に浸かれる風呂と温泉」「玄関で靴を脱ぎ、たたみでの生活」は世界に誇る日本文化だという事を再認識した。そう言えば、ご夫婦もスリッパの生活だった。「日本の良さは認められている」

**フジオカさん宅**

アメリカのプレゼント文化について

　アメリカではクリスマスに代表されるように、年末商戦の話題にもなる程、プレゼントの習慣が根強く息づいている。日本でも家を訪問する時は、手みやげを持参する習慣はあるが、帰りにその家からおみやげをいただく事は少ないのではないだろうか。市役所を訪れた時にも強く感じたが、ポラード市長から盛りたくさんのおみやげをいただいた。バッグの中には市制１５０年記念バッジを始め、バンクーバー市特製Ｔシャツ、市指定の買物マイ・バッグの他に、チョコレートや飴まで入っていた。また、メキシコ料理を食べに行った時、Clark Collegeの日本語専攻コースの若い女性教師も８名全員にわざわざチョコレートのおみやげを持って挨拶に来てくれた。スージー・ＦＵＪＩＯＫＡのご両親宅からもきれいな手提げバッグの中に歯ブラシや歯磨き粉（さすが歯科医！）をはじめチョコレートやハワイアンコーヒーまで入っていたのには驚いた。家を訪問してもらった感謝の印のようだが、夕食をごちそうになった上におみやげまでいただき、申し訳ない気分。これから私も見習うようにしたい。それにしてもサーモン（鮭）とカナダで3年前にご主人が採ったという「カナダ産マツタケ」はおいしかった。

握手の習慣について

　今回の旅行で何回握手をしただろうか。握手をする事ですごく近親間が沸くのは不思議なくらいだ。初めて会った時、別れの時、握手を当たり前のようにする習慣は是非、日本にも取り入れたら良いと思う。それにしても握手が力強いのには驚いた。大きな手でぎゅっーと握るのだから日本の女性はどう受け止めたのか、是非知りたいものだ。

街ウォッチング・あれこれ

・路線バス、低床式路面電車

　バンクーバーからポートランドへ路線バスに乗って見学に行った。車だったらフリーウエイを通るので、20分もかからないが、折角なのでバスに乗ってみたいという事でホテル近くのバスターミナルへ。バスは繁華街を通るので、５０分もかかったが初めての経験で退屈はしなかった。車内は黒人が断然多かったが、白人と隣同士で乗っていた。４０年程前に読んだ、小田　実「何でも見てやろう」の世界とは大分変わっていて安心した。また、元大相撲のハワイ出身の力士・小錦にも負けないような体系をしている人を多く見かけた。何故、こんなに多いのか不思議な位だ！歩くのも、バスに腰掛けるの可能である。もっとびっくりしたのは、６５歳以上なら子供並みの運賃で乗れる事。それも自己申告で他の町の人でも、外国人にも適用されるのだ。日本だったら市バス、地下鉄は京都市に住む人だけの特権で、城陽市民には適用されないのに、ここでは私たち外国人旅行者に

も、同じ特権があるなんて。アメリカは何と心の広い国なのか。日本も早く島国根性を捨てて、アメリカを見習って欲しいものだ。また、バスには車椅子でも簡単に乗り降り出来るステップがあり、運転手が手元のスイッチ一つで簡単に操作していた。すばらしい！また、自転車は運転席の前に乗せられる設備があり、ほとんどのバスは自転車を乗せて走っていた。

・交通マナー

ドライバー１人１人が交通ルールをしっかり守って、運転している印象を受けました。「止まれ」の標識では必ずいったん停車し、左右を確認していました。日本のように徐行しながら進む車はありません。またスピードも控えめのようでした。最も道路が広いのでそれ程スピード感はありませんが。ただし、横断歩道では車が来ないと確認したらどんどん渡りはじめます。アメリカでは「自己責任」が浸透していて、横断歩道を渡る時でも「自己責任」で判断し行動し自分で自分を守る習慣が身についているようです。

・アメリカ人は皆　陽気！

街を歩いていても気軽に挨拶してくれる。日本だったら若い女性に声をかけたら、痴漢と間違えられてしまうが、日本の山で声を掛け合うのと同じ事が街中で出来る。素晴らしい！

若い女性にもずいぶん声をかけられた。ただし、Ｇｏｏｄ　Ｍｏｒｎｉｎｇ！だけだが。

・レストラン

旅行中、これ程色々なレストランで食事を体験した事はありませんでした。ホテルの朝食に始まり、夕食は機内食、海鮮料理、ギリシャ料理、イタリア料理、メキシコ料理、ＦＵＪＩＯＫＡ宅の家庭料理、スーパーで買い込んで来て部屋での夕食等バラエティーに富み、どれもそれなりに美味しく食べたが、肉と油を使ったものが多くこれなら「子錦」にならざるを得ない気もしました。朝も昼も夜もパンだけなので、ご飯がすごく食べたかった。

・アメリカへの入国・出国手続きについて

アメリカへの入国は厳しいとうわさは聞いていたが、想像以上という感じ。まず驚いたのは成田空港国際線へのゲートでパスポートの提示を求められた。羽田からの路線バスにアメリカの軍人と思われる人が乗り込んできた。私達旅行者はパスポートを持っているが、見送りの人は身分証明書を持っていない人もいるのに、どうなるのだろう？

乗用車はトランクまで開けられてチェックされていた。無事、ゲートを通過し、トランクを預けようと航空会社の受付カウンターへ行くと、パスポート番号、有効期限、生年月日、搭乗券番号を全部コンピューター画面に登録しないと荷物を預けられない。これを「アーリーチェックイン」と呼ぶらしいが、慣れるまで大変だ。私のパスポートが汚れていてコンピューターが読み取り出来ず、大幅に時間がかかり、皆に迷惑をかけてしまった。

・搭乗のチェックインは成田では手荷物をベルト台に乗せ、人は探知機を通過する従来通りのやり方だったが、ベルト台に乗せられた手荷物は中身が全て丸見えのすごい機械だった。女性の化粧品等液体類は透明の袋に入れ、手に持たなくてはダメ。

・シアトルでは、また大変だった。まず上着と靴を脱ぎ、ベルトもはずし、手荷物はベルト台に乗せ、人は探知機を通過しチェックを受けなければならない。上着と靴を脱がなければならないし、ベルトもはずさなければならなかった。私はうっかり、上着のポケットにライターを入れていて見つかり、没収されてしまった。ライターで良かった！

・次は入国手続き。長蛇の列の最後尾に並び順番を待つ。パスポートと入国許可証、関税申告書を提出すると、パスポート写真と顔をじっと見比べ、何日間滞在か聞かれた。次にメガネをはずすように言われ、小型カメラで顔写真を撮られた。

・ポートランド空港でも同じような手続きを踏み、やっとバンクーバー市から迎えの人に会う事が出来た。日本語で「ディスカバリー・ワーカーのみなさん！」と大きな紙を持って歓迎してくれた。思わずホットすると同時に、笑い転げてしまった。我々は働きに来たのではないのに！「ウォーク」が何故「ワーカー」に？
・帰りのポートランド空港でも「アーリーチェックイン」で手間取り、搭乗のチェックインも出国なのに厳しかった。
・サンフランシスコでも同じ事をやらされた。乗り換えのためいったん外へ出るので、また同じ検査を受けた。
・適正なものだけしか持ち帰りしなかったので、関空での検査は以外に簡単で、パスポートの提示だけで良かった。
・９・１１テロ以来、アメリカへの出入国は厳しさを増しつつあるが、仕方ないのだろうか？

アメリカ・バンクーバー市のボランティア事情

東部コミュニティーセンターの運営は２００のＮＰＯと１０００人のボランティアが登録、活動している事を紹介しましたが、私達が参加した「アストリアとウォレン・クラブ（カニ）フェスティバル」のドライブ旅行もボランティアで運営されていました。５０＋トリップ（５０歳以上を対象にした小旅行）も市職員１名と１５名程のボランティアにより運営されていて、市は公用車を提供し、運転は一定の条件を満たすボランティアに委託している。当日のボランティアの方の話によると、月２～３回の活動をローテーションで行っているようです。また、ウォレン・クラブフェスティバル会場でたくさんの黄色いスクールバスを見かけました。ちょうど学校はお休みで、利用しているのは５０歳以上の人達で、スクールバスで来ていたのです。バスを上手に使っているのには感心しました。

**ボランティア　ダリルさんのボランティア証**

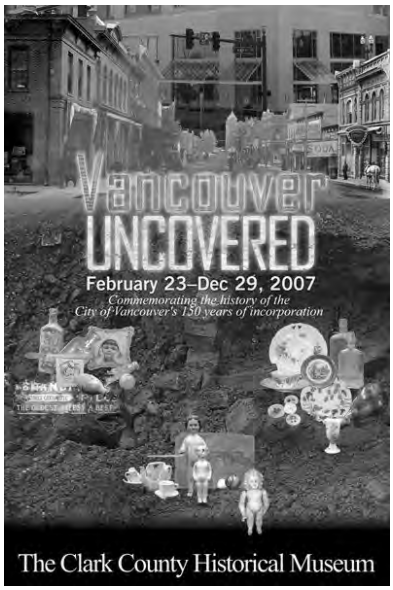
「バンクーバー交流の旅」に参加して

これからバンクーバー市で留学やホームステイを考えている市民の方は城陽市国際交流協会にご相談いただき、一人でも多くの城陽市民が姉妹都市バンクーバーに出かけ、またバンクーバーからは城陽へ来ていただき、市民レベルの交流がもっともっと盛んになる事を切望いたします。実際、聞くのと見るのでは大違いで、旅行中はカルチャーショックの連続で、やはり、行って良かったと実感しました。また、色々なことを学びました。今回の「バンクーバー交流の旅」も８名全員、事故一つなく元気に楽しく行って来られたのも、城陽市国際交流協会スタッフを始め市役所のバックアップがあってこそ実現出来た事に深く感謝します。ありがとうございました。

**ポラード市長と記念撮影**

## クラーク郡歴史博物館

歴史博物館はバンクーバー市の中心部にあり、1909年にオープンした由緒ある建物です。当初は図書館として利用されており、公共施設としては初めて電気が灯されたそうです。1981年には国の歴史的建造物にも登録されています。
訪問団が訪れた時はバンクーバー市150周年記念として「Vancouver Uncovered」（掘り出されたバンクーバー）展が開催されいて、市中心街の再開発の際に発掘された品々が展示されていました。博物館のスタッフの話では発掘して整理のついていないものがまだまだたくさん残っているそうです。




## 「バンクーバー交流の旅」訪問団名簿

| 氏　　名 | 備　　考 |
|---|---|
| 山岡　誠 | 団長、協会副会長 |
| 飯降　悦正 | 協会会員 |
| 河野　容子 | 協会会員 |
| 菊本　順子 | 協会会員 |
| 田中　芳子 | 協会会員 |
| 出島　永 | 協会会員 |
| 中村　文宣 | 協会会員 |
| 大久保　雅由 | 協会職員 |

（協会会員の氏名は五十音順）

## ＜あとがき＞

姉妹都市との交流は「People to People」「草の根交流」を活性化し、お互いの市民が出会い、ふれあい、学びあうことが大切です。

市民訪問団では「目的を持って行動しできるだけ地元の普段着の暮らしを見てみたい」と考えています。今回の訪問ではディスカバリー・ウォーク・フェスティバルというイベントへの参加とあわせて生涯学習や高齢者の活動などを体験するというテーマとなりました。

いざ、計画しようとすると未知の領域のためにどこから手をつけてよいか大変難しい点もありました。また、アメリカ合衆国バンクーバー市は当然ながら私達の街とは違ったシステムであり戸惑うこともしばしばでした。

バンクーバー市役所や現地に詳しい協会内外の人々のサポートを受けてこの計画は実現できました。さらに訪問中は現地のボランティア、各施設のスタッフ、バンクーバー市民から多くの協力をいただきました。ご協力をいただいた皆様に改めて感謝いたします。

現地で6泊7日の訪問中の体験をこの文集から感じていただくとともに、今後も多くの人が姉妹都市交流をはじめとする素晴らしい異文化体験に参加していただけることを願っております。

バンクーバー市で無料配布されている高齢者向け情報誌

発行：城陽市国際交流協会
〒610-0121
城陽市寺田西ノ口7-4　西邦ビル2F
TEL: 0774-57-0713
FAX: 0774-55-0560
E-mail: office@jiea.jp
WEB: http://www.jiea.jp/